

山形県文化芸術交流発信事業費

事業評価個票（事業実施：平成30年度）				部局名	観光文化スポーツ部			
短期アクションプラン	テーマ	テーマ1 郷土愛を育み未来を築く子育て支援・多彩に活躍する人づくり						
	施策	施策5 文化・芸術、スポーツの振興						
	目的	オリンピック・パラリンピックなどに向けて、スポーツや文化・芸術を振興し、郷土への愛着と誇りを醸成するとともに、地域の活力向上につなげる。						
	目標指標（R2）	山形駅西口拠点施設及び県内の主要な美術館・博物館等の入場者数	790,000人					
	策定時の実績	358,310人（H27年度）	現状	380,845人（H28年度）	主要事業	郷土への愛着や誇りを育む文化・芸術の振興		
事業名	山形県文化芸術交流発信事業費		担当課・担当	県民文化スポーツ課 文化振興担当				
事業開始年度	平成24年度		事業終了（予定）年度	未設定				
事業の目的（目指す姿を3行程度で簡潔に）	県内の文化芸術活動の中核的団体と連携し、県とそれらの団体の共同主催により、地域の文化資源を活用した文化芸術活動や地域の文化芸術の担い手育成などに取り組むとともに、良質な文化芸術の鑑賞機会を幅広く県民に提供することで、本県の文化の振興、交流人口の拡大、地域の活性化などを図る。							
事業概要（5行程度で簡潔に）	県と文化芸術活動の中核的団体が共同主催（山形県文化芸術交流発信事業実行委員会を組織）により、良質な各種文化芸術鑑賞事業等を実施。共同主催者には、その事業費の1/2以内の額を県が負担金として負担する。県の負担金には国庫補助金を充当。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由：県内の中核的文化団体との共同主催による事業実施であるため。							
予算額・決算額（単位：千円）	費目（予算見積書のグループ名）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	山形県文化芸術交流発信事業	48,363	45,357					
	計	48,363	45,357	0	0	0		
財源内訳（単位：千円）	国庫支出金	48,209	45,203					
	繰入金							
	その他特定財源							
	一般財源	154	154					
	計	48,363	45,357	0	0	0		
活動指標及び活動実績（アウトプット）	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	文化芸術鑑賞事業数	活動実績	件	27	28			
		当初見込み	件	27	28	28	28	28
成果指標及び成果実績（アウトカム）	成果指標（所管部局の分析）		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	入場者数（入場者数目標H32年度79万人に寄与する。）	成果実績	人	40,048	22,944			
		目標値	人	30,000	32,000	34,000	36,000	38,000
		達成度	%	133.5	71.7			
関連事業	・県立文化施設管理運営費 ・文化団体等連携支援事業費 ・文化による地域への愛着・誇り醸成事業費							

事業目標の考え方(事業目標設定時)

人口減少社会、過疎化の急速な進展を踏まえ、これらの課題解決に本県の優れた文化的資源を活用した施策の推進が必要不可欠であることから、県と県内の中核的な文化芸術団体が協働・連携しながら、県民に良質な文化芸術に触れる機会を提供し本県の文化振興に資するとともに、文化芸術による交流人口の拡大、経済も含めた地域の活性化を図る必要がある。また、平成29年度における県政アンケートにおいて、文化芸術の鑑賞・活動の課題を質問したところ、「興味のある公演や作品が少ない」との回答が4割近くを占めており、県民だけでなく県外・国外からの鑑賞客も惹きつける良質な催事の開催が必要である。以上のことと、連携する文化施設の容量、過去の入場者数をもとに、達成しうる最大の入場者数の目標を設定した。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	B	当該事業において実施した入場者アンケートにおいては、87%が、当該事業で実施された公演、展覧会の内容について「大変満足」「満足」と回答しており、内容的には良質な文化芸術を提供できている。しかし、入場者数において平成30年度は見込みを下回っており、目標水準の妥当性、広報の方法なども今後検討する必要がある。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	B	
	目標水準は妥当か。	C	
	期待する成果が得られたか。	C	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	—	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	活動実績は当初の予定通りの事業数を実施できた。支出先については、県内の中核的文化団体と県が構成員である「山形県文化芸術交流発信事業実行委員会」であり、当該団体しかこの事業は実施できないため、妥当。また、当該実行委員会の構成員は事業経費全体の半額以上を負担しており、負担関係も妥当。また、負担金の対象を事業の実施に必要な不可欠なものに限定している。
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A		
の役割 妥当 性担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	県全域において事業を展開するため、市町村では実施できない。また、低価格で県内外からの集客を図る目的もあり、県が経費を負担する必要がある。
今 改 善 の 課 題 ・	平成30年度は入場者数が目標値を下回った。入場者アンケートの結果、特に海外からの集客については、ほとんどできていないことが判明した。今後は、地域文化の活性化だけでなく、海外へ本県文化をPRすることにより交流人口を拡大させるためにも、広報の方法、事業内容の思い切った見直しなども必要と考えられる。		

- ・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。
- A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。
- B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。
- C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。
- : 該当しない